

DDDとは

DDD (Defined Daily Dose):

医薬品の主な適応症に対する成人の1日仮想平均維持量

DDDの決定で考慮すべきポイント

1. 主な適応症に対して
(抗菌薬では中等症を想定)
2. 成人 (体重70kg) の仮想平均量
3. 治療上の維持用量
4. 投与経路

DID (DDDs/1,000 inhabitants/day) について

1日における1,000住民あたりの使用量を示す指標で、主に海外との比較等に用いられる。

DID (DDDs/1,000 inhabitants/day)

$$= \frac{\text{1日あたりの特定地域における抗菌薬使用量(g)/DDD(g)}}{\text{特定地域の人口 (inhabitants)}} \times 1,000$$

例. 20XX年の日本で販売された抗菌薬B (DDD = 0.2) の使用量 (g) が 1,000,000 gであった。20XX年における日本の人口が120,000,000人であった場合

DID (DDDs/1,000 inhabitants/day)

$$= ((1,000,000 / 0.2) / 120,000,000) \times 1,000 / 365 = 0.1142 \text{ (DID)}$$